



発行所
全日本金属産業労働組合協議会
住 所 東京都中央区日本橋 2-15-10
電 話 03-3274-2461
編 集 IMF - J C 組織総務局
発行人 團野 久茂
定 価 1 年分 60 円

IMF - J C ホームページ <http://www.imf-jc.or.jp>

IMF - J C 第 43 回定期大会 / 結成 40 周年記念式典・レセプション開催



新運動方針、第 2 次賃金・労働政策を採択
古賀議長をはじめとする新役員を選出

9 月 3 日、IMF - J C は東京プリンスホテルで第 43 回定期大会を代議員・役員・傍聴約 350 名出席の下、開催した。海外からは 19 カ国・地域から 21 組織 26 名が参加した。

議事は、河野和治代議員 (J A M) と山口一郎代議員 (基幹労連) の 2 名の大会議長団の下すすめられた。

冒頭、IMF - J C を代表して鈴木勝利議長が挨拶した後、国内来賓を代表して笹森清連合会長、海外来賓を代表してユルゲン・ペータース IMF 会長から挨拶を受けた。(2 面参照)

審議事項では、2005 - 06 年運動方針を團野久茂事務局長が提案、産別から原案賛成の立場で意見・要望が出され、全員の拍手で承認・決定した。この後、第 2 次賃金・労働政策について若松英幸事務局長が提案、満場一致で承認した。

2005 年度会計予算などを承認した後、役員の変更では、鈴木勝利議長が勇退し、古賀伸明新議長 (電機連合) をはじめとする 2005 - 06 年度役員を満場一致で承認した。また、顧問の委嘱も行った。最後に、福田良雄副議長が大会アピール (3 面参照) を提案、全員の拍手で確認し、大会を終了した。

大会終了後、40 周年記念式典を挙行了。引き続き、同ホテル・鳳凰の間で内外関係者 700 名余が集い、40 周年記念レセプションが開催された。(4 面参照)

2005・06 年度役員一覧	議長	古賀伸明	(電機連合)
	副議長	加藤裕治	(自動車総連)
	"	小宮幸男	(JAM)
	"	園田哲郎	(基幹労連)
	"	福田良雄	(全電線)
	事務局長	團野久茂	(基幹労連)
	事務局次長	若松英幸	(電機連合)
	"	植松良太	(自動車総連)
	"	中野治理	(JAM)
	"	高比良芳由美	(基幹労連)
	常任幹事	大石福村	(電機連合)
	"	萩原克彦	(自動車総連)
	"	近藤治郎	(自動車総連)
	"	大山勝也	(JAM)
	"	野藤弘二	(JAM)
	"	内藤純朗	(基幹労連)
	"	石塚拓郎	(基幹労連)
	"	前田雅昭	(全電線)
"	矢吹智将	(全電線)	
会計監査	小山正樹	(JAM)	
"	吉田潤一	(全電線)	

注) 印は新任。

定期大会・結成記念式典・レセプションについては、IMF - J C のホームページもご覧ください

全議案を拍手で承認



鈴木議長
挨拶(要旨)

組合員の一生の人生を通じて 労働組合が果たすべき新たな 役割を明確に

第1点は、第2次賃金・労働政策についてである。この政策は新しい時代を迎えて、私たちの生活のあり方を考え、かつ人生の大半を過ごす会社生活の中で、自分らしさという価値観を確立し、労働を通じて自己実現を図っていくという、高邁な理念に基づいた政策である。

労働をすることによる経済的側面、すなわち対価としての賃金を得て生活に供するという側面と、今まででおろそかにしてきた、労働を通じての生き甲斐や働き甲斐を自覚し、自らの成長を図っていくという精神的側面をも重視した運動を確立することを目的にしている。貧しい時代ゆえに絶対的な求心力を有していた経済的側面の運動に、一生の人生を通じて労働組合が果たすべき新たな役割を明確にする、組合員とその家族全員の「ゆりかごから墓場」まで、社会生活を送っていく一生の中で起こりうるさまざまな問題、経済的な、精神的な、また法律的な、その他あらゆる問題に対して「労働組合があるゆえに助かる」システムを構築することが求められている。

その中で、会社生活における処遇や働き方へのあり方を明確にしたのがこの第2次賃金・労働政策である。

企業倫理と労働組合の責任

次に触れておきたいことは「企業倫理と労働組合の責任」についてである。

近年、企業のモラルハザードが社会問題になっているのは申し上げるまでもない。

労働条件さえ交渉していれば労働組合の役割が果たせる時代ではもはやない。企業の不祥事は、労働組合の不祥事でもあるという意識を持ち、労使関係のあり方や日常活動の質的な向上を図るために、新年度を迎えて自らを検証し是正していくことを通じて、労働組合の社会的責任を果たしていくことを、改めて皆さんと共に誓い合いたいと思う。



大会議長団を務める河野代議員(JAM:左)と山口代議員(基幹労連:右)



連合を動かしているのは間違いなくJ C

笹森 清連合会長

日本の労働運動、ナショナルセンター・連合を動かしているのは、まさにIMF-JCだと私自身は思っている。

そういう意味で、日ごろのご協力に感謝すると共に、これからの連合労働運動の発展に対するさらなるご尽力を皆様方をお願い方、申し上げておきたい。

生活の根幹にかかわる社会保障の問題について、これ以上のテーマは労働組合にない。その政策課題に対して、労働組合がその中に入り、みず

から国家の制度をつくり上げるという役割はリスクも負うし責任もあるけれども、私は連合がなし遂げなければならない役割だと思う。

格差が広がる中で、さらにまたその格差が2極分化、3極分化をすることに対して、中小の労働運動と中小の政策と、そして、中小の春季生活闘争を前面に押し立てることが、99%の働く人々に対する大きな影響力を持つ。その役割をナショナルセンターがとり切れるかどうか。ここに連合の改革の1つの方向の一端が見出せたと思っている。この先導役を果たすのは、私はJCしかない」と期待し、そのことをお願いしておきたい。



来賓挨拶(要旨)

IMF-JCは日本のトレンド・セッター ユルゲン・ペータースIMF会長

IMF-JC第43回定期大会へのお招きと、発言の機会をいただいたことに心から感謝したい。全日本金属産業労働組合協議会は40回目の誕生日を迎えられたことを、心からご祝福申し上げます。1964年5月のIMF-JCの設立当時、そしてその後の道のりを振り返ると、素晴らしい成果であると深い尊敬の念を込めて言わせていただきたい。IMF-JCは金属産業の労働組合をまとめ、各々の活動の調整役としての力を発揮してきた。設立当初の組

合員数は45万人に過ぎなかったのだが、その後、10年の歳月をかけて基礎固めを行い、今日、200万人の組合員を擁している。70年代半ば以降、IMF-JCは日本におけるトレンド・セッターである。例えば春闘において、また、日本の多国籍企業の企業別協議会の構築においても、東南アジアを中心にした労働組合の設立においても、主導的な役割を果たしている。



産別意見・要望(要点)

第2次賃金・労働政策について、問題は、この政策をどう具体化するかである。提起されている内容は、労働組合にとっても、いずれも早急に取り組むべき課題であると考え。産別や単組で取り組む課題、JC共闘として前進をさせる課題、政策・制度課題として位置づける課題、それぞれにきっちりと区分けをしながら、政策実現に向けた取り組みを着実に前進させる必要があると考える。

政策・制度はそのことによる効果がどれだけあるのかということが、なかなか数値化しにくいものである。数値化したほうがわかりやすいということも含めて、そういうことを意識しつつ、政策・制度実現への道筋をどのようにするのか、さらに、職場への広がりをどのように図るのか、こういったことを明確にしながら、政策・制度に関する取り組みを進めていただきたい。

今回の第2次政策の確認を機にして、金属産業の発展を目指し、豊かな生活を送るための新たな働き方の実現に向けて、着実な成果が得られるよ



濱田代議員
(電機連合)



久保代議員
(自動車総連)



小出代議員
(基幹労連)



勝部代議員
(全電線)



岸野代議員
(JAM)

う、取り組みの強化を求めたい。日本の主要な基幹産業であるものづくり産業の結集体である、IMF・JCが、ぜひとも製造業全体の中でリーダーシップを発揮すると共に、国内生産基盤強化に向けた牽引役としての実効性ある取り組みを行っていただくことを強く希望する。

新たな労使フレームワークの構築について、金属産業全体に共通する課題の解決とともに、金属産業全体を網羅する労使関係の構築に向けて、さらに努力を続けてほしい。

「総合プロジェクトチームを中心に連合金属部門の視点も含めて、具体的に方針を策定する」とある。

40周年の節目を迎えるに当たっては、これからのJCのあり方について、これまでの議論も踏まえつつ、積極的な議論と明確なJCとしての方向性が提示されることを期待する。

総合プロジェクトチームによる取り

組みについて、見直しをすること自体が目的ではなく、変化の激しい時代に合った運動を展開するための手段であるという視点を堅持し、守るべき基本をしっかりと押さえる中で、JCの良さを生かすような論議を行い、組合員の視点に立った変革を期待する。

【本部答弁】

すべて原案賛成の立場で意見を頂いた。今後、5産別の協力のもとで、さまざまな課題があるが、十分に議論を尽くし、具体的な考え方を整理し、取り組みを進めてまいりたいと考えているので、よろしくご協力をいただきたい。

大会アピル

本日、われわれは第43回定期大会を開催し、2005～06年度運動方針を決定した。

わが国経済は、景気回復基調が続いており、失業率も回復しつつあるが、現状では、非典型雇用労働者が増加し、長期失業者は依然として高い水準にあるなど、国民全体が景気回復感を共有できていない状況にある。小泉政権が公約に掲げてきた構造改革は骨抜きの状態となっており、加えて、年金抜本改革の先送りをはじめ、勤労者の将来に対する生活不安は増すばかりである。一方、国際的な市場競争がさらに熾烈なものとなっているなかで、わが国金属産業が国際競争力を確保するためには、まずもって国内生産基盤を強化していくことが極めて重要な課題となっている。

このような閉塞状況を打開するため、金属労協は、本日決定した運動方針を軸として、デフレの解消、わが国の潜在成長力を回復させるための構造改革、勤労者の生活不安払拭に向けた政策・制度諸課題解決を政

府に要求していく。また、産業インフラコストの引き下げ、ものづくり技術・技能の継承・育成、規制の整理・撤廃など、ものづくり産業の国内生産基盤強化にむけた産業政策活動を一層強化していく。さらに、「第2次賃金・労働政策」に基づき、時代の変化に対応した金属産業にふさわしい総合労働条件を確立する運動展開を図っていく。

本年、金属労協は、節目となる結成40周年を迎えた。これまで築き上げてきた金属労働運動をさらに発展させ、今後も、「民間産業・ものづくり産業・金属産業」に働く者の代表として、またIMFの中核として、その責任を果たしていく。そのため、新たに設置する「総合プロジェクトチーム」において運動のあり方や金属労協本部、連合・金属部門連絡会機能を含めた組織のあり方を徹底議論し、運動方針に掲げる経済・社会の中長期的変化に適合する金属労働運動の追求と運動発展基盤の確立をめざしていく。

古賀新議長
挨拶(要旨)

絶え間ない自己革新のもと
一步一步前進の軌跡を

IMF・JC結成40周年という大きな節目を迎えての新体制のスタートで、身の引き締まる思いでいっぱいである。微力ではあるが、これまでの諸先輩が築き上げられた数々の運動の足跡、活動の実績を踏まえ、全力を傾注していきたい。ぜひ皆様方のご指導、ご支援を心よりお願い申し上げます。

当然のことながら、この難しい時代を私たちみずから手で、私たち自身の智恵と行動で乗り越えていかなければならない。一方では、このような難しい時代だからこそ、組織や個人の新たな可能性を探し出す絶好の機会でもあるはずである。すべてのことを常に前向きに、常に主体的に受けとめ、日常の自己研さんを怠ることなく、絶え間ない自己革新を図っていきながら、本日、決定した5つの重点課題を中心に、きょうから一步一步、次なるステージへ向けて、軌跡を刻んでいきたいと考えている。

結成40周年記念式典



教育関係で功労のあった
2団体3個人を表彰

主催者を代表して挨拶する古賀IMF・JC議長



竹中正夫同志社大学
名誉教授の記念講演

第43回定期大会終了後、同会場で、IMF・JC結成40周年記念式典が挙行された。記念式典では、冒頭、主催者を代表して古賀伸明IMF・JC議長が挨拶に立ち、この40年間、激動の時代を加盟産別・単組の皆様のご協力と、多くの関係者に支えられてIMF・JCは国内外の労働運動、社会に大きな影響力を与え、発展できたことに感謝した。そして今回の式典では、多くの功績のあった方々を代表して、特に教育活動 労働リーダーシップコースの面で、功績のあった団体・個人を表彰することにした旨報告した。

続いて、特別功労賞の授与に移り、古賀議長から、2つの団体(明治学院大学、同志社大学)と3人の個人(金井信一郎明治学院大学名誉教授、竹中正夫同志社大学名誉教授(労働リーダーシップコース校長)、中條毅同志社大学名誉教授(労働リーダーシップコース運営委員長))に特別功労賞が授与された。

次に、記念講演に移り、労働リーダーシップコース校長である竹中正夫同志社大学名誉教授から「労働組合指導者に期待するもの」と題して、講演を受けた。

今後の一層の発展を誓い合う



JCに大きな期待 世界の牽引役に
笹森連合会長 マレンタッキIMF書記長



ご祝辞



共に発展を 今後も協議を
坂口厚生労働大臣 矢野日本経団連専務理事



各界の代表による鏡割り(上)
主催者代表古賀議長挨拶(右)
鈴木前議長の音頭で乾杯(下)



IMF・JC結成40周年記念レセプションが、東京ブルースホテル・鳳凰の間で内外関係者700人を集め、開催された。議長挨拶の後、来賓挨拶、鏡割、乾杯が行われた後、出席者はなつかしい仲間との思い出話に花を咲かせるとともに、IMF・JCの今後を期待を寄せた。

40年の歩みを振り返る写真展も開設



結成40周年記念レセプション